

令和3年度第1回朝日町総合教育会議 会議録

令和3年5月25日（火曜日）

午前10時10分から午前11時15分まで

エコミュージアムコアセンター創遊館会議室

出席者 朝日町長 鈴木 浩幸
朝日町教育委員会
教育長 堀 俊一
委員 五十嵐義一
委員 井上 幸弘
委員 橋間 博美
委員 海野 睦

職務のため出席した者の職氏名

教育文化課長 阿部 正文
主幹 田中 靖士
補佐兼学校教育係長 佐々木直美（書記）
主査兼生涯学習係長 伊藤 雅樹

1. 開 会

課長の進行及び開会宣言

2. あいさつ

鈴木 浩幸 朝日町長
堀 俊一 教育長

3. 協議事項

教育文化課長より会議の招集者である町長を議長とすることを確認し、了承を得る。

【非 公 開】

- 議長（鈴木町長）** (1) 検討委員会設置の方向性について説明を求めた。
- 主幹** 資料に基づき、「学校のあり方検討委員会（仮称）設置に向けて」を説明した。
- 議長（鈴木町長）** (1) の協議内容について質疑、意見の有無を確認した。
- 井上委員** 具体的に義務教育学校と小中一貫校との違いは何か。
- 主幹** 義務教育学校は9年間をかけて児童生徒を育てていくことです。
- 井上委員** 新庄市は義務教育学校、戸沢村は昨年度まで小中一貫校で、今年度から義務教育学校であるが最終的には自治体判断か。
- 橋間委員** 戸沢学園の場合は1年～4年（前期）、5年～7年（中期）、8年～9年（後期）の3ステージではなく小学校6年（前期）、中学校3年（後期）の2ステージなのか。
- 主幹** そうです。
- 井上委員** 明倫学園はいろんな地域の先生というマンパワーを活用している。
- 教育長** 今の制度が義務教育学校の実態に追い付いていない。5年～7年（中期）の担任は小学校と中学校の免許状が必要である。誰が担任を持つのかという問題。中学校は教

科担任制だが小学校は学級担任制が現状である。文部科学省では制度改正の前段として令和3年度から小学校5・6年生に教科担任制を持たせることをスタートしている。

- 議長（鈴木町長） 戸沢学園は6－3のままなのか。
主幹 そうです。
五十嵐委員 町民の意見を尊重して進めていくことになる。
海野委員 難しい問題である。
五十嵐委員 議会との関係はどうなるのか。
課長 議会にはその都度説明し理解を得ながら進めていかなければならないと思います。これまでも一般質問の回答等を通して説明しています。
議長（鈴木町長） 資料5Pの4今後のスケジュール（案）のなかにもあるが今後、議会総務文教常任委員会議会、全員協議会で報告していくことになるのか。
課長 そうです。さしあたっては令和3年9月議会へ組織（検討委員会）を立ち上げるといふ報告になります。
教育長 本日の総合教育会議のなかで検討委員会の名称についてアドバイスをいただきたい。
議長（鈴木町長） 教育長から話があった検討委員会の名称については本日、決定するということがよいのか。
教育長 要綱を制定するにあたっての名称となりますのでお願いしたい。
議長（鈴木町長） 考え方もよいのでご意見を頂戴したい。
橋間委員 はっきりわかる名称に副題をつけることでもよいのではないかと。「学校のあり方検討委員会」にサブタイトル「未来の学校をみんなで創ろう」をつけてはどうか。また、資料3Pの地域を明るく照らす灯台がなくなる地域についても配慮していかなければならない。
井上委員 そのものズバリの名称「新しい小中学校検討委員会」でよいのではないかと。曖昧な名称ではなく1歩進んだかたちでよいのではないかと。
議長（鈴木町長） さまざまなご意見がありましたが井上委員は「新しい小中学校検討委員会」という名称でしょうか。
井上委員 アンケートの内容にもよるがこれほど時間を要してもよいのか。今は1期工事、2期工事をしてからの開校はあまりない。ある程度多人数の中で多様な考えにふれる機会のためにも新たな学校が必要だ。開校まで10年もかけてよいのか。もっとスピーディーに進むべきではないか。なるべく早く新しい環境を整えるべきではないか。
議長（鈴木町長） 非常に現実に即した意見を頂戴した。資料4Pの年次計画のおおまかなシナリオについて改めて事務局より説明を求めた。
課長 開校までの期間は設置する校舎の場所の選定も影響してくると思います。
議長（鈴木町長） 具体的な内容まで踏み込んでいただいた意見をお聞きしながら大筋この方向で進めていく。
五十嵐委員 名称を今日、決定するのではないかと。
課長 今日この場で決まらない場合は町長、教育長と協議して決めていきます。
議長（鈴木町長） 「新しい小中学校検討委員会」ということによろしいでしょうか。

五十嵐委員 「未来」や「新しい」という言葉が良いのではないかと。町長、教育長、課長で決めたことに教育委員は従う。イメージは同じなのでいいと思う。

議長（鈴木町長） 今回委員の皆さんからいただいた意見を基に決めていきたい。前段（資料「1 背景」、「2 これまでの経緯」）については前年度に話し合ってきたことであり教育委員皆さんで共有しているので、後段（資料「3 今後の進め方」、「4 今後のスケジュール」）について協議して決めていく。

五十嵐委員 検討委員の公募について説明していただきたい。多数応募があった場合はどうするのか。

課長 公募委員と指名委員とのバランスもありますが、公募いただいた意欲のある方からは、できるだけ参加いただきたい。

議長（鈴木町長） 学校運営協議会委員からも選出するのか。

五十嵐委員 公募して20数名の応募があった場合は選定し、応募が0の場合は全体を見回して声がけし選定することでよいのではないかと。

橋間委員 学校運営協議会委員の名から選定委員に選ばれなかった方が応募したらどうするのか。

井上委員 公募という形をとらず学校運営協議会委員のなかから選定してよいのではないかと。

五十嵐委員 密室で誰が決めたかわからないよりは公募した方がよいのではないかと。

議長（鈴木町長） 学校運営協議会でこの話をしないのか。

主幹 話をするとすれば熟議で話をします。

議長（鈴木町長） 4つの学校運営協議会でご意見をいただくこともよいのではないかと。

五十嵐委員 いろいろな意見を参考にするのはよいのではないかと。

課長 あり方検討委員会だけではなく学校運営協議会でそれぞれの話をしてその意見を吸い上げて方向性を示していくことも必要かと思えます。

教育長 それぞれの学校運営協議会で意見をいただきその中から検討委員について年齢構成のバランスを取りながらグループ討議を行いその中に事務局が入って共通理解を持ち、なるべく適正な規模であり方を協議していく。

議長（鈴木町長） なるべく偏らない構成で広く協議していく。

教育長 橋間委員からご意見のあった灯台のなくなる地域の方の考えを考慮していくことが一番難しい。今ある校舎をどうしていくのかのご意見も活用例を出してもらいながら進めていく。老朽化した廃校がそのまま残っている状態ではなく地域のシンボルとして活用することも検討していく。

五十嵐委員 アンケートの対象者を絞っていく必要がある。子供や孫がいない家庭は今ある学校を残した方がよいと簡単に答えるだろう。

主幹 たしかに当事者意識を持った方とは意見が違うと思えます。

議長（鈴木町長） 年齢、状況によって考え方が違う。多数意見がすなわち学校のあり方の意見とはならない。

教育長 描いた案に導くためのアンケートである。子供たちの気持ちをどのように吸い上げていくのか。子供の意見、親の意見、祖父母の意見等対象者を絞って、結論を示すシナリオを考えて実施する。

五十嵐委員 心の中ではわかっていることなのだが、事務局はデリケートな部分をくみ取っていかなければならないので大変である。

- 議長（鈴木町長） 検討委員会に示す場合も留意しながら進めていかなければならない。過去の事例もあるので慎重に慎重を重ねて事を運ぶ必要がある。
- 海野委員 こういう魅力のある学校が早くできれば町も明るくなるのではないか。
- 議長（鈴木町長） 資料のこのスケジュールで進めていく。議員の方々からさまざまなご意見も出ると思うが丁寧に進めていく。
- 教育長 推進する部分と慎重に進めていく部分と両方で進めていく。
- 議長（鈴木町長） その他の質疑、意見の有無を確認し、質疑及び意見並びにその他協議事項が無い旨を確認した。

4. 開 会

以上、協議し、午前 11 時 15 分に第 1 回朝日町総合教育会議の会議を閉じた。

町 長

教 育 長

調 製 職 員 佐々木 直美